白内障と硝子体の手術

年齢を重ねるうちに気になる「白内障」。発症に男女差はなく、60代ではほぼ100％の発症率といわれます。よく知られた目の病気ですが、詳しく知っている人は多くないのでは。白内障の手術とともに、最近よく耳にする「糖尿病網膜症」など網膜硝子体疾患の手術も多数手掛けている「中山眼科」（川口町）の中山雅雄院長に聞きました。

中山雅雄院長

白内障を知る

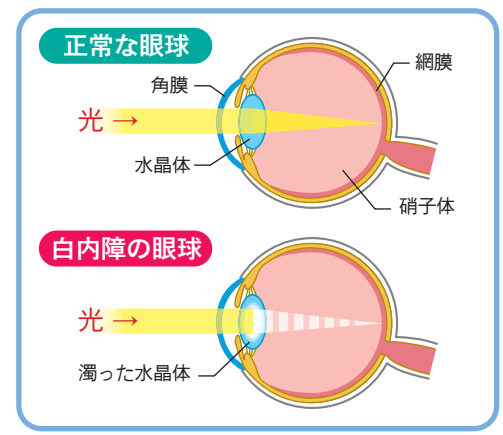
年齢とともに誰にでも起こる病気

人の目をカメラに例えると、フィルムに当たるものが網膜で、レンズに当たるものが水晶体。その水晶体が濁ってくる病気が「白内障」です。

水晶体は、主にたんぱく質と水でできています。たんぱく質は、加齢や紫外線に長年さらされる…など、さまざまな影響を受けて、だんだんと変化し白く濁ります。その結果、水晶体全体が濁ってしまうのです。水晶体が濁ると光がよく通らなくなり、網膜に像を結ぶ働きが弱くなって、多くの場合、かすみ目やまぶしさを感じるようになります。進行すると、視力も徐々に低下します。

白内障はさまざまな原因で起こりますが、最も多いのは加齢によるもので、これを「加齢性白内障」と呼びます。一種の老化現象なので、加齢性白内障は高齢の人ほど多く発症。ほかの老化現象の進行が一人一人異なるように、水晶体が濁っていくのも白内障が進行するのも、そのスピードは個人差がありますが、誰にでも起こり、中には片目だけが進行する人もいます。

また、若い世代でも、アトピー性皮膚炎や糖尿病などの全身疾患の合併症として白内障を発症することがあります。このほか、母親の胎内で風疹（ふうしん）に感染するなどが原因で生まれつき白内障になっているケースや、目のけがや薬の副作用から白内障を起こす場合もあります。



【白内障の症状チェックリスト】
こんな症状があったら要注意
- □目がかすむ
- □物が二重・三重に見える
- □視力が低下してきた
- □暗い所にいると物が見えにくい
- □明るい所にいるとまぶしく感じる
- □普段は見えないのに、一時的によく見えることがある

白内障の治療法を知る

初期段階では進行を抑える点眼薬を

白内障の治療は、症状の進行段階により異なります。日常生活に支障のない初期の場合は、進行を抑える点眼薬を使いますが、視力を回復する手段は、手術以外にはありません。

10分程度で済む日帰り手術が主流

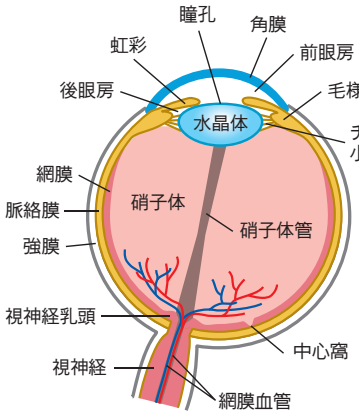
白内障の手術は主に、濁った水晶体を超音波で砕いて取り出し（超音波水晶体乳化吸引術）、人工水晶体（眼内レンズ）を挿入する方法が取られています。

手術は局所麻酔で行います。触れられる感じはありますが、痛みはほとんどなく、会話もできます。術中、上から光が照らされますが、まぶしいと感じるのは最初のうちだけです。手術自体は10分程度なので日帰り手術が主流で、保険の対象となっています。

眼内レンズは一人一人に合わせて度を決め、一度挿入すれば取り換える必要はありません。ただし、ピント調節機能がないので、手術前に医師と相談して、自分のライフスタイルに合った度を決めることが大切。また、術後も眼鏡などによる視力矯正が必要な場合もあります。※近くと遠くの2カ所にピントが合う「多焦点眼内レンズ」もあります（保険適用外）。

硝子体って何？

眼球の大部分を占める透明なゼリー状の組織



「硝子体」は、眼球内の大部分（約2／3）を占める器官で、水晶体の後方にある透明なゼリー状の組織（左図参照）。眼球の外側を覆う強膜とともに眼球の形を保つ役割と、外力を分散させる作用を持つとされています。

この場所で起こる病気のことを総称して、一般的に眼底疾患といいます。眼底疾患にはさまざまな病気があり、「加齢黄斑変性症」や「網膜剥離（はくり）」「糖尿病網膜症」といった病名をテレビや雑誌などで聞いたことのある人は多いでしょう。これらは、進行することによって視力が低下したり、最悪の場合、失明してしまう恐れがある病気ばかりです。

このため、病気の状況に応じて直接眼内・眼底にアプローチする手術「硝子体手術」を行うことが、最近増えています。

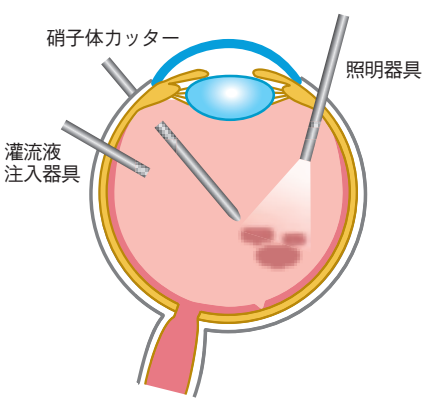
【硝子体手術の適応となる疾患例】
- ●糖尿病網膜症
- ●加齢黄斑変性症
- ●硝子体出血
- ●硝子体混濁
- ●黄斑上膜
- ●黄斑円孔
- ●網膜裂孔
- ●裂孔原性網膜剥離
- ●網膜静脈閉塞（へいそく）症などによる黄斑浮腫

…など

硝子体の手術とは？

白目から器具を挿入し硝子体を除去する手術

「硝子体手術」とは、簡単にいえば硝子体を除去してしまう手術です。出血などで混濁してしまった硝子体を取り除くことを目的とすることもありますが、実際にはその奥にある網膜を治療するために硝子体を除去する場合が大半です。

手術は局所麻酔で行います。触れられる感じはしますが、痛みはほとんどありません。具体的には、白目に小さな穴を3ケ所開け、硝子体を切るためのカッター、照明のための光ファイバー、眼球の形状を保つための灌流（かんりゅう）液を流す管を挿入。カッターを眼内で操作し、病変をきれいにしていきます。手術時間は病状により異なりますが、30分～60分程度。また、白内障がある場合は同時に手術します。

硝子体内でさまざまな操作を行う硝子体手術は、眼科分野でも最も難しい手術の一つに挙げられますが、近年では手術装置・手技が開発され、安全性が高まるとともに、手術成績も向上しています。中でも最先端のシステムを用いた小切開硝子体手術は、手術による侵襲が極めて少なく、日帰り手術も可能に。1㎜以下（0・5㎜程度）の切開・無縫合での手術が可能です。